

読売歌壇

小池 光選

敗戦後八十年が暮れてゆく廊下の奥に誰か立っている
千葉市 佐藤 綾子

【評】 渡辺白泉の有名な句「戦争が廊下の奥に立つて来た」を受けての歌。この句は昭和十四年の作。いま世界中に怪しい影が漂って、ふと当時を連想させ、ふきみだ。
排水の孔にストロンと掃除用歯ブラシ落ちてしまったまの正月
京都市 姥目 櫻

【評】 これもよくわかる歌で排水口に歯ブラシを落として、取れなくなった。どうやってみても取れない。そのままやむなくお正月。人生には、ままごとということがある。
大枯野引き込み線の貨車にふと脳裏に浮かぶアウシュビッツが
天津市 千川 修一

【評】 ユダヤのひとびとは貨車に詰め込まれてアウシュビッツに連れていかれた。「大枯野」という出だしがインパクトある。
助手席に座れば五分で眠る妻。こんな私に命預けて
真庭市 小谷 義孝

アボカドはメキシコ産のみどりいろひとつ手に乗すこの世の時間
浜松市 藤田 亜耶
はなかもにマスクをとらず眼鏡とるこの頃多し
奥州市 佐藤 茂美
われのちぐはぐ
鳥取県 表 いさお

さびれたる商店街にいまもなお琴三味線を弾く店あり
成田市 神郡 一成
春を寿ぐ
駅前道を始発のバスが来るバリバリと氷割りつつ
柏市 佐藤 敏文

朝焼けはビルの壁からやってくる 人が造ったものしかない街
名古屋市長 屋河

栗木 京子選

熊がでて坂道する子供なし午後の寒風さらに冷たし
沼田市 古井 修平

【評】 冬が深まっても冬眠しない熊がおり、外出が制限されている。寒風を吹き飛ばす子供たちの声が聞こえれば心が弾むのに。「さらん冷たし」から不安と寂しさが伝わる。
引越した友より三つの図書館に行けたと元気な声ありうれし
奈良市 甲斐田 八重

【評】 読書好きな友は引越し先で早速に気に入りの図書館を見つけた。スーパーマーケットやカフェでなく「三つの図書館」との出会いを喜ぶ友。「うれし」があたりたか。
ため池にアオコが発生風の画家流線型の構図を描く
京田辺市 佐々木 英夫

【評】 植物プランクトンのアオコがため池に発生。水面のアオコの動きを風が描く絵画に見立てている。「流線型の構図」が新鮮。
戦争は遺児という名の子をつくる吾も背負いたり五歳の夏に
今治市 青野 千春

飛行機は鉄塔に雲を引いてゆく戦地にイブの灯りを待つ子
生駒市 高橋 裕樹
この町の年も静かに暮れゆきてほろ酔い加減の拍子木の音
大阪市 神洲 橋

干し柿や干し餅軒にぶら下がる父の実家で過ごした正月
松江市 加賀 昭人
檜皮葺く比叡の寺に雪積みて大師粥食ふ息の白さよ
霧島市 内村 としお

わたしの過去の失敗を教訓に蜜柑の栽培に挑む人をり
いわき市 佐川 義成
往路は負け復路も今は負けてゐるもう走り切るだけが目標
神奈川県 中島 やさか

俵 万智選

それぞれの聖火に見えるスタバからぬくもりを手に散ってゆく人
越谷市 秋山 ともす

【評】 テイクアウト用のカップを手に、店から出てゆく人たち。その一杯の向こうにあるそれぞれの人生を見つめるまなざしが優しい。コーヒーやカッパという語を使わずに表現して、抽象度を上げたところも技ありだ。
北海道物産展みたいな人名を聞くだけで嬉しんだから
横濱市 紺屋 小町

【評】 大胆でユニークな上の句の比喩。驚きつつも下の句で納得させられる。「嬉しん」という弾んだ口語も効いている。
思いきり腕を広げて日を抱く春という字に溢れ出す春
八王子市 鈴鹿 直之

【評】 漢字を自分なりに読み解く面白さ。上の句、なるほど、と思つ。春の意味合いともうまく重なり、希望に満ちた結句となった。
酔ひのち二時間を経て妻は青い葱なご抱へて戻る
青梅市 諸井 未男

改札の伝言板は生まれつき六時間しか持たない記憶
横濱市 山田 知明
検索のアイコンは虫眼鏡ゆえほくら拡大解釈しがち
上尾市 関根 裕治

庭先の明かりをひとつ消すようにばちと缺で切っている柚子
平塚市 風花 雫
ほどかれることを知りつつ結ばれるリボンのような約束だった
高崎市 くらたか 湖春

瞬化させる喜びを知らず缶コーヒー温めている冬の自販機
東京都 富見井 高志
ダイエットでできる幸せ噛みしめてサラダチキンをもゆっくり食べる
東京都 富尾 なつ

黒瀬 珂瀾選

ラジオにてクレソンの味語る人しばし物食む音のみ聞こゆ
京都市 根来 美知代

【評】 軽妙なトークが途切れ、シャク、シャク……と菓物を噛む音が流れた。クレソンの試食だろう、かすかな咀嚼音だけを聞くというラジオならではの微妙な時間の面白さ。独房に姉の差し入れくれし本の頁繰るたび家の香のせり
松本市 武井 絢彩

【評】 本を読みながら、しみついた匂いを嗅ぐ。それは、外界の生活の匂いだ。今の自分には禁じられた、家族の営みを遠く思う。いつまでもグレート・テギンを手放さぬ父の気持ちがかかる還暦
東久留米市 中里 正樹

【評】 ガンダムです。「グレート・テギン」はジオン公国王子デギンの座乗艦だが、父王に叛逆した長男ギレンにより撃沈される。でも、歳を取ったら、父の気持ちもわかる？
吐く息も降る雪の中きらめいて白い衣装に神楽舞う巫女
名古屋市長 山本 望

シドニーの月下美人が咲きしとふ連絡のあり時差は二時間
所沢市 岡田 陽一
パンよりも肉の分厚いカツサンドよビールの欲しい喜寿と傘寿や
対馬市 神宮 齊之

友だちとシール一個でケンカしてさめざめと泣く孫は八歳
福山市 坊坂 有子
葬儀までの五日はあまりに日常で米研ぎ眠り時々笑つ
印西市 塩田 幸子

意も知らず「かりそめの恋」を口ずさむ敗れし国の悪童われは
大網白里市 小林 栄一
たばこ吸ふなら美しく吸へと言った父 紫煙も昭和も遠くなりたり
名古屋市長 山守 美紀

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇次回は16日(月)掲載 右の影絵はきんかん